

ウサギの診療

～一次診療でのポイント、二次診療への紹介～

みわエキゾチック動物病院

東京大学附属動物医療センターエキゾチック動物診療科

Vision Vets Group Lab

三輪 恭嗣

ウサギ診療

ウサギ診療の原則

犬や猫と全く**同じ** → **診断**に基づく治療

診療の原則: 診断に基づく治療をするために

- 正常を知る: 解剖・生理・行動etc.
- ウサギの特徴・特性を知る(できれば飼い主も...)
- ウサギを取り扱える: 保定、採血、麻酔etc.
- 主な病気とその症状を覚える
- 紹介先を確保する

正常を知り、取り扱えないと
獣医療を提供できない



➡ 紹介

本日のテーマ

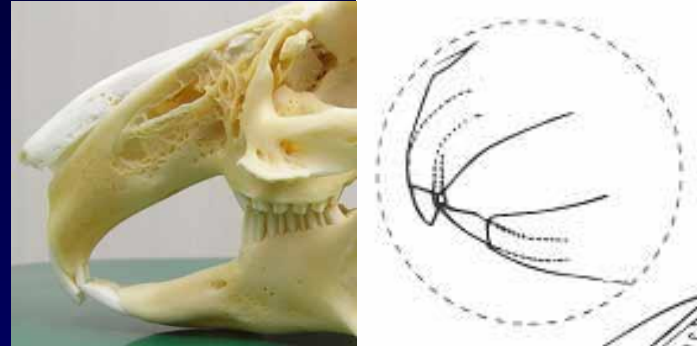
- テーマ1:ウサギを知る
- テーマ2:ウサギの主な疾患
- テーマ3:治療と二次診療への紹介
- テーマ4:二次診療施設との付き合い方

テーマ①:ウサギを知る

- 分類

犬猫⇒食肉目

ウサギ⇒重歯目



- 食性: 完全な草食動物

主食の主成分はセルロース

特殊に進化した歯と消化器

- その他: 鼻呼吸動物、特殊なCa代謝

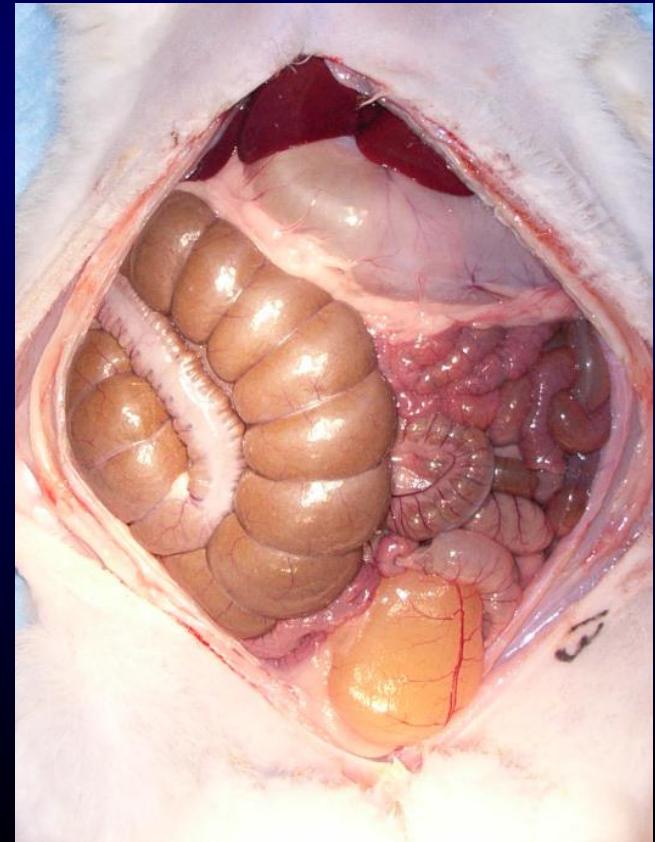
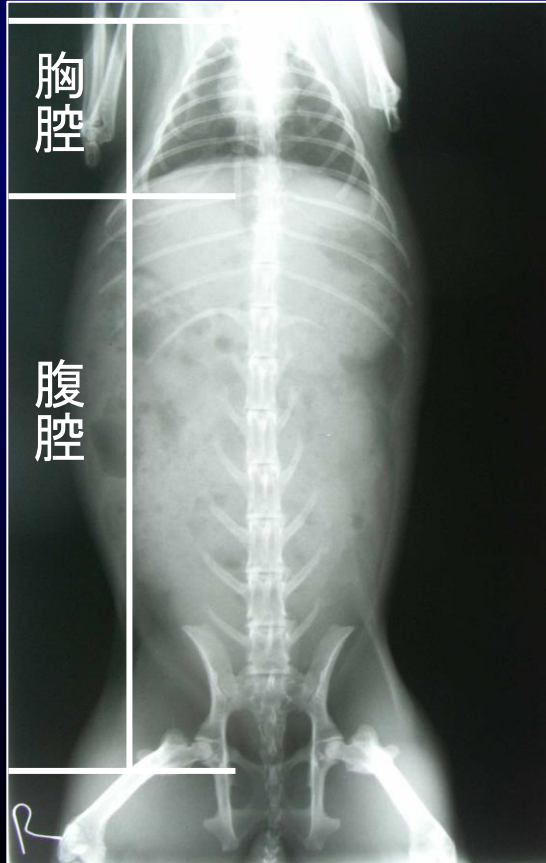
ウサギの歯の特徴

- 重歯目
- 全ての歯が常生歯（開放性歯根）
- 犬歯がない（歯間隙）



ウサギの消化器の特徴

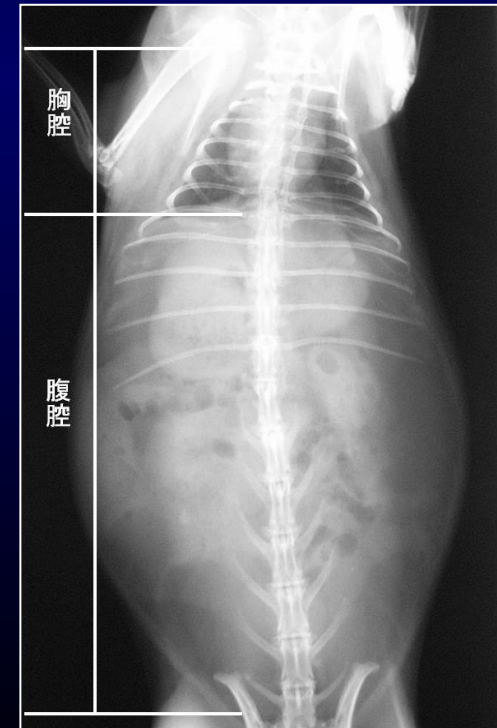
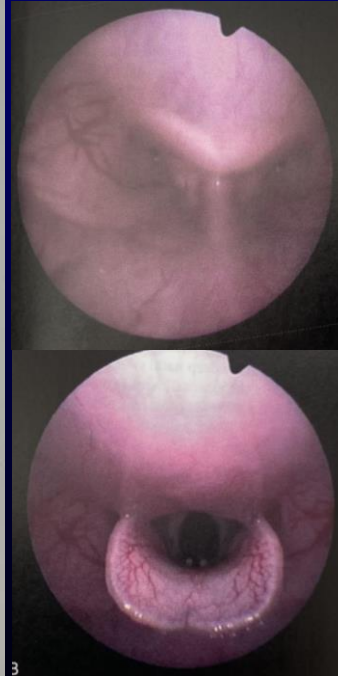
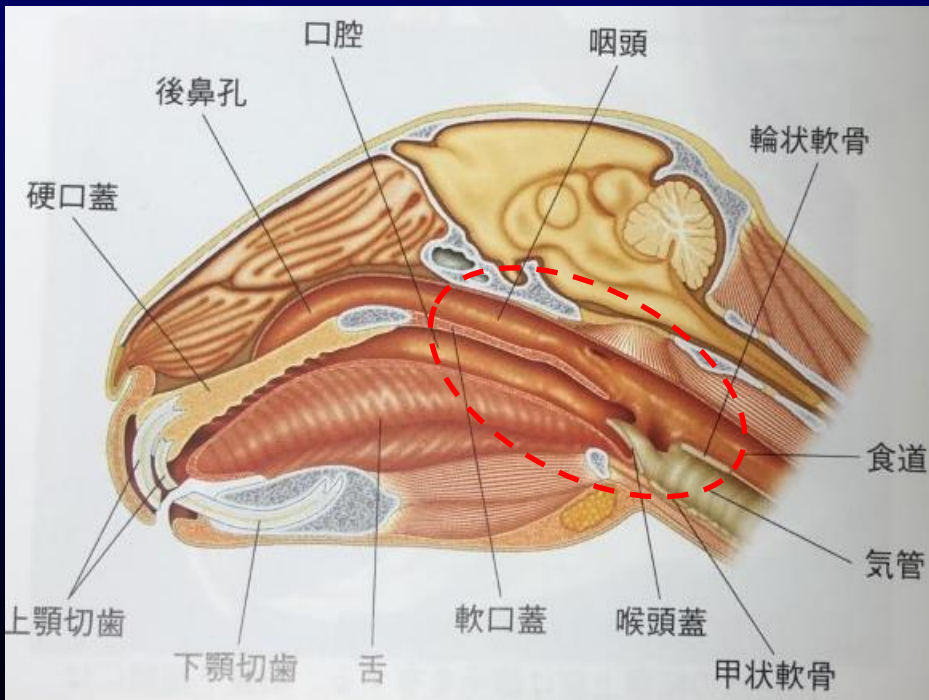
- 巨大な消化管
(大きな胃と盲腸)
- 常に動き続ける消化管
- 複雑な腸内細菌・微生物
- 後腸発酵
- 食糞



ウサギの呼吸器の特徴

- 鼻呼吸動物
- 狭い咽頭部、大きな舌根部、軟口蓋による覆い
- 狭い胸腔、大きな腹腔

～呼吸の予備能力が低い～



ウサギの泌尿器の特徴

- 混濁尿と赤色尿
- 特殊なカルシウム代謝
- 単一な腎乳頭(ウサギ,げっ歯類の特徴)
- 雄:大きな鼠径輪 雌:尿道の開口部(膣前庭)



ウサギの飼い主の特徴

～大きく3つに分けられる～

普通の飼い主

- ・大半の飼い主
- ・犬猫と同様
- ・犬猫よりは...
- ・希望する治療,
かけられる費用
は様々

犬猫の飼い主と同様
ウサギの飼い主の特徴

熱心な飼い主

- ・少数の飼い主
- ・犬猫以上のことも
- ・家族以上
- ・絶対に治したい
- ・一生懸命

治療への協力得やすい
動物,飼い主,獣医師への
ストレス
改善時は良いが...

学校飼育動物

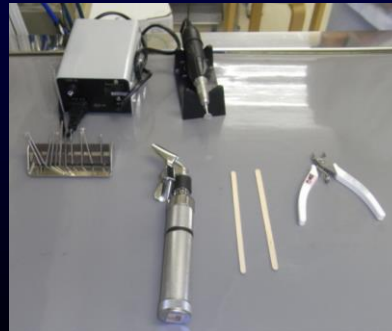
- ・担当者による
熱心さ,責任感

費用面
夏休みなどの預かり
引き取りなど

ウサギの取り扱い

ウサギを診察、治療するために必要な事

- 適切に取り扱える、**保定**できる(VTも)
- 必要最低限の**機器**をそろえる
- 適切に**麻酔・鎮静**を行える
- 適切に**周術期管理**や**支持療法**を行える
- 適切な**入院環境**を準備できる



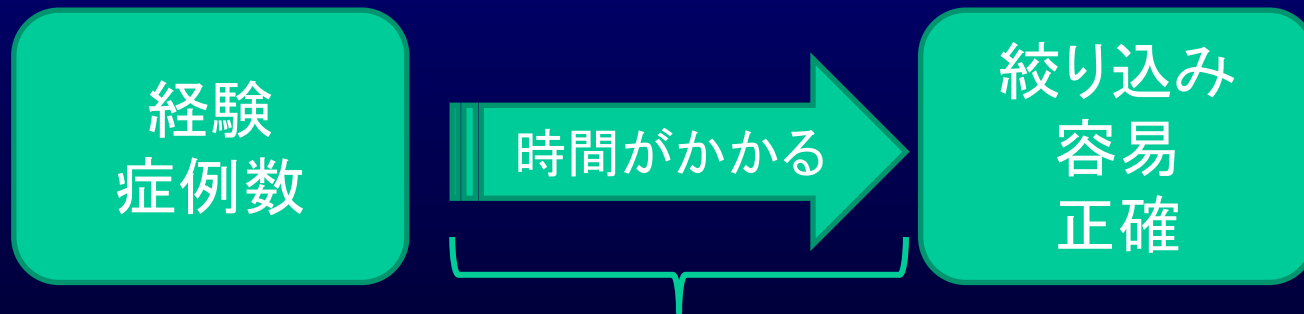
テーマ②:ウサギの主な疾患

一般的な疾患は頻繁に来院する

来院する症例の多くは一般的な疾患

いつもと違う、何か違う、変？に気づけるかどうか

取りあえず対症療法で様子を見ていい？



本講演の目的

経験を経ずに最低限の知識を得て二次診療施設を利用し、
患者に最適な獣医療の選択肢を提供する

テーマ②:ウサギの主な疾患

- 歯科疾患
- 皮膚疾患
- 消化器疾患
- 眼科疾患
- 生殖器疾患
- 整形疾患
- 泌尿器疾患
- 神経疾患

テーマ③: 治療と二次診療への紹介

歯科疾患

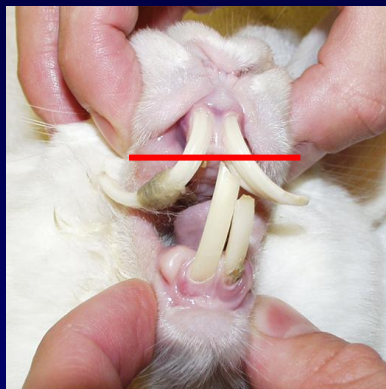
- 不正咬合

切歯

臼歯

- 膿瘍

治療: 過長部のトリミング

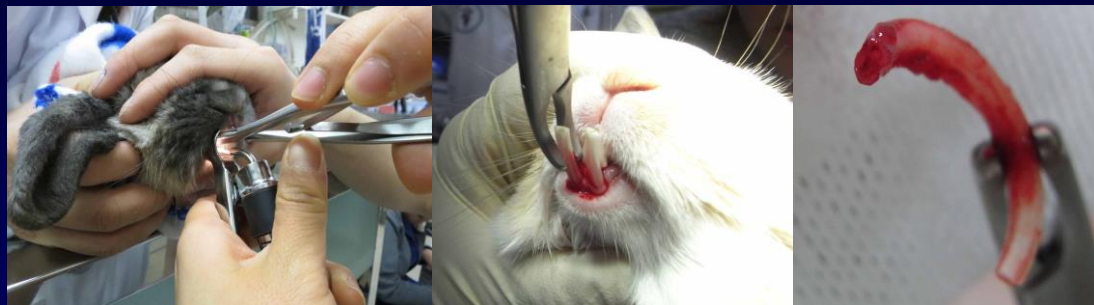


歯根部関連性膿瘍 治療: 切開、排膿、洗浄...

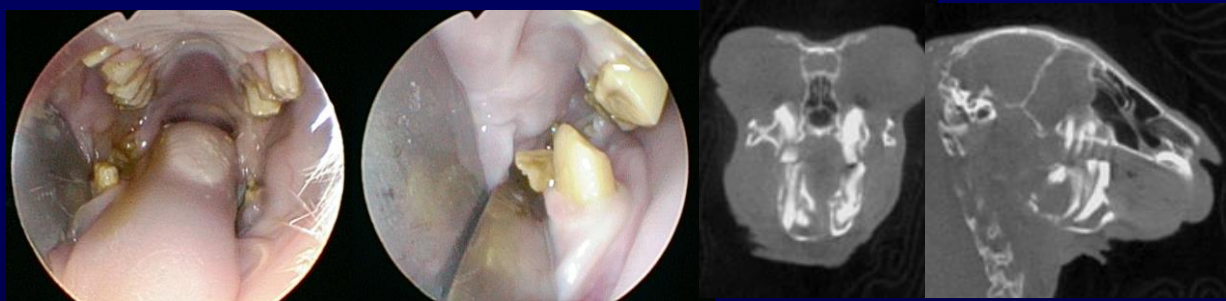


二次への紹介: 歯科疾患

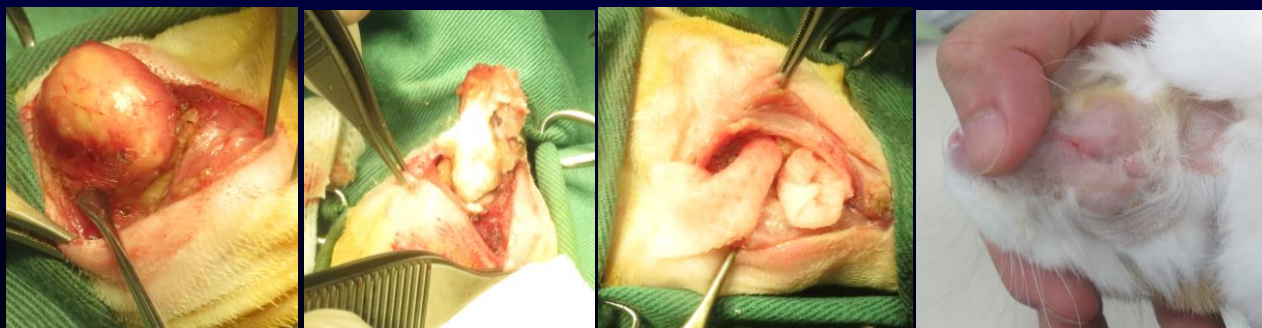
無麻酔下臼歯カット
切歯の抜歯



詳細な検査
内視鏡,CT検査



歯根部膿瘍
治癒率向上



消化器疾患

- 糞便の異常

内科的治療

- 食滯(機能的イレウス)

内科的治療(支持療法)

原疾患,原因に対する治療



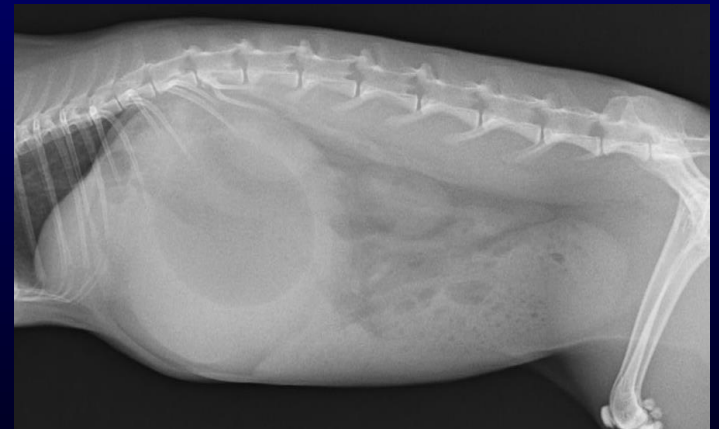
- 物理的イレウス

外科的治療

- 肝疾患

内科的治療

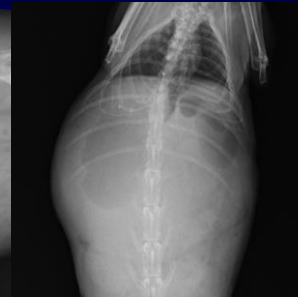
外科治療(肝葉捻転,腫瘍など)



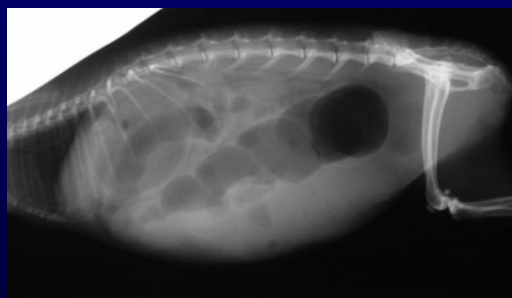
二次診療への紹介：消化器疾患

慢性例、外科疾患など

食滞
慢性例
急性
胃拡張



物理的イレウス
緊急手術
高リスク



肝疾患
肝葉捻転
肝生検など



生殖器疾患

雄

- 精巣腫瘍
- 鼠径ヘルニア



雌

- 子宮疾患
- 乳腺疾患



多くが**外科的治療**が第一選択

手術手技は犬猫と同様

麻酔リスクと周術期管理

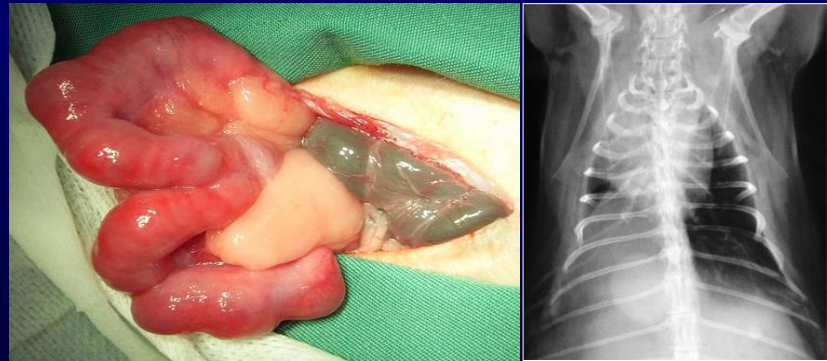
二次診療への紹介:生殖器疾患

高齢、他疾患併発など**高い麻酔リスク**の症例

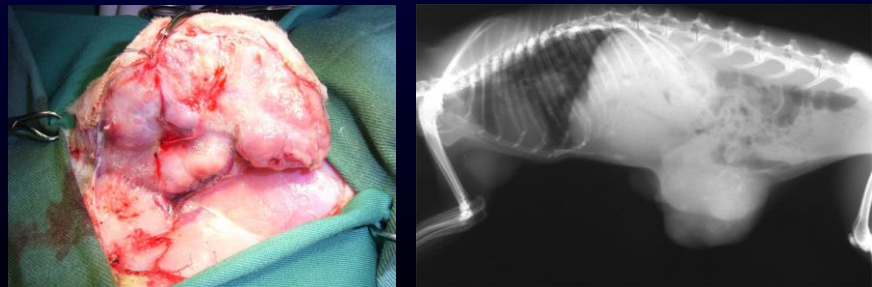
雄
精巣疾患
鼠径ヘルニア



子宮疾患
重度の貧血例
(輸血が必要)
転移,横隔膜ヘルニアetc.



乳腺疾患
全摘,片側全摘など
高侵襲例



泌尿器疾患

- 尿砂,尿石症

内科治療

外科治療



- 腎不全

内科治療

- 血尿

内科治療

外科治療



- その他: 腫瘍など

二次診療への紹介：泌尿器疾患

尿石症
尿道内,
尿管内結石



重度腎不全
静脈内点滴と支持療法



その他
腫瘍性疾患
膀胱脱



眼科疾患

犬猫同様、様々な眼科疾患がみられる
多くは犬猫と同様の治療

- 流涙症
- 角膜外傷
- 白内障



二次診療への紹介：眼科疾患

眼球突出



眼窩膿瘍

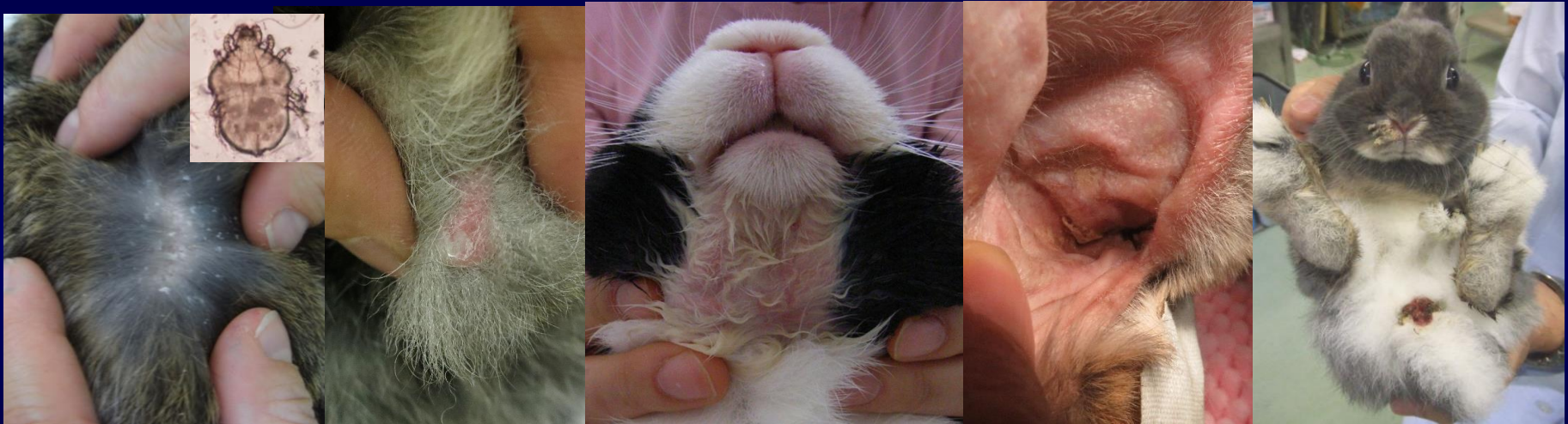


その他



皮膚疾患

犬猫同様、様々な皮膚疾患に罹患



診断、治療は犬猫と同様

ウサギ特有の疾患や臨床徴候の把握

ウサギで注意すべき治療法の確認(抗生剤,フロントラインetc.)

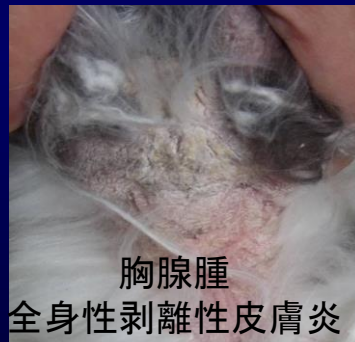
二次診療への紹介：皮膚疾患

難治例や外科疾患など

慢性例



難治例

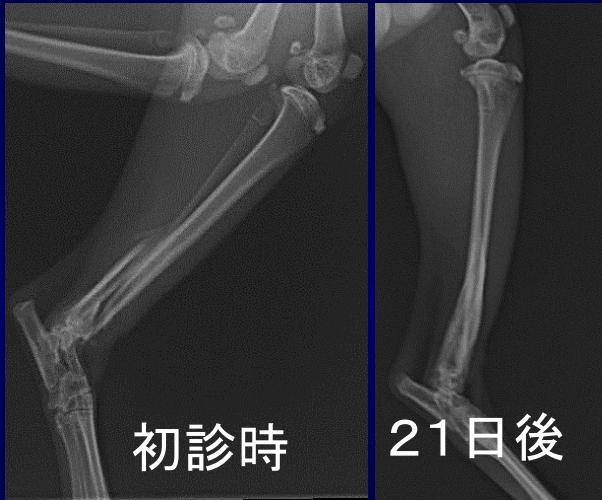


外科治療例 放射線治療例

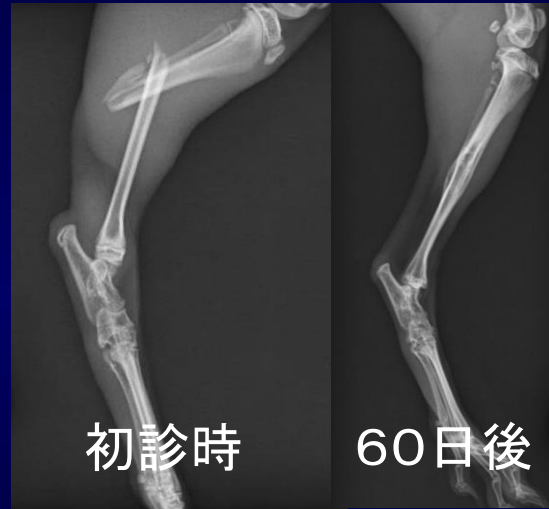


整形疾患

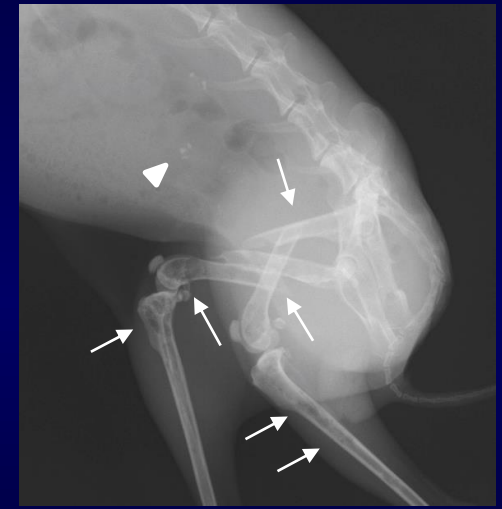
ウサギの骨は脆く、筋力は強い
周術期管理が犬猫と異なり困難、医原性骨折に注意



4ヵ月齢、ケージレスト



3ヵ月齢、外固定



病的骨折(子宮疾患)

若齢(6ヵ月齢未満)かつ変位の小さいものはケージレストで治癒

四肢端の骨折は外固定も可(ウサギでも犬猫の原則遵守)

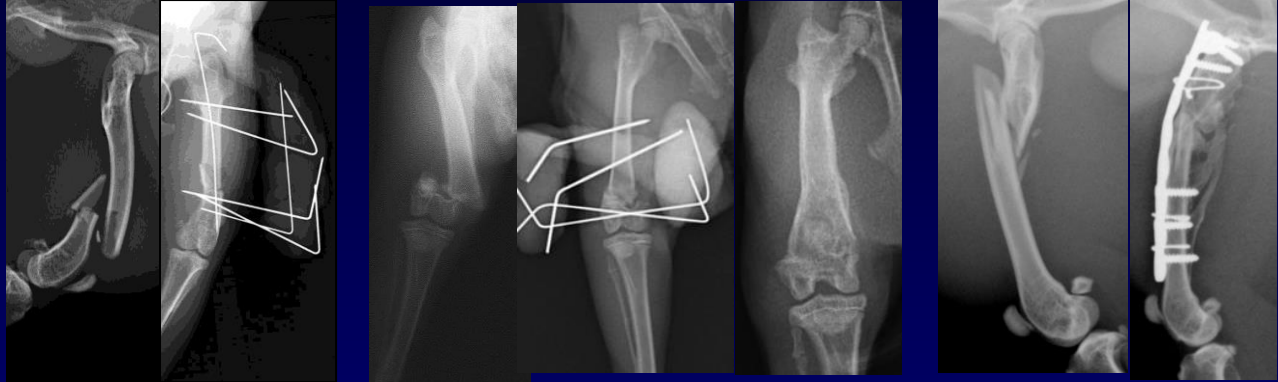
病的骨折に注意

断脚術は容易

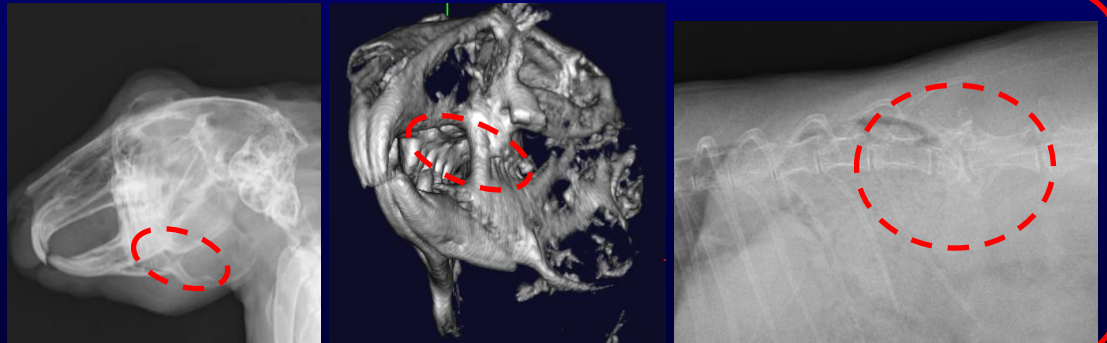
二次診療への紹介：整形疾患

整形外科手術例や介護療法など

骨折
脱臼の整復



椎体の骨折,脱臼
顎骨や骨盤の骨折



精査や状態の評価

整形外科疾患

支持療法や介護療法

支持療法継続(点滴など)

⇒二次診療施設

⇒二次診療施設

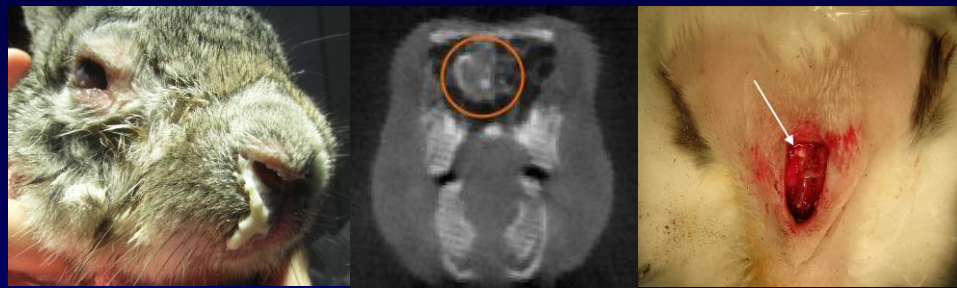
⇒二次診療施設と飼い主

⇒ホームドクター

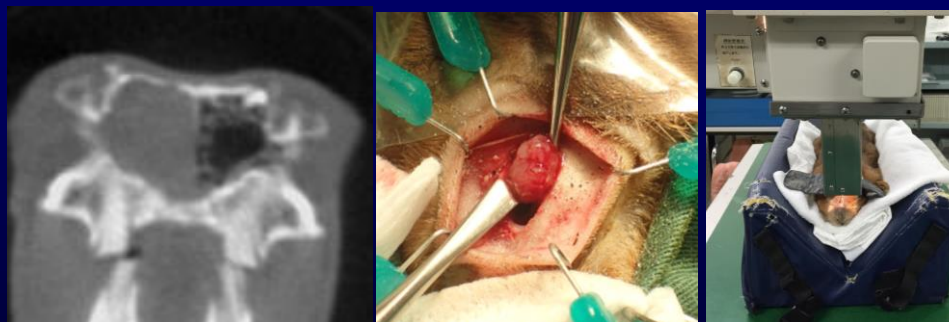
二次診療への紹介：呼吸器疾患

慢性例、重篤な呼吸困難、外科治療例

慢性鼻炎



鼻腔内腫瘍



胸腺腫
横隔膜ヘルニア



二次診療への紹介: 神経疾患

様々な神経疾患



斜頸, 眼振



開脰脚



四肢不全麻痺

原因不明、詳細な報告は少ない

診断目的: CT検査、MRI検査、エンセファリトゾーン etc.

治療目的: 対症療法、支持療法

テーマ③：二次診療との付き合い方

- 紹介するかどうか

紹介する目的は？どこに紹介する？

- 紹介する目的

動物種で、精査・診断のため、治療のため

- 紹介時の注意

これまでの経過報告、飼い主の情報、

二次診療施設に望む範囲（手術のみ，継続治療も）

- 紹介後の対応

二次診療からのフィードバック

経過報告・相談 etc.

テーマ③: 二次診療との付き合い方

一時診療と二次診療が**連携**することで

適切な診断や治療を動物に受けさせる
飼い主からの信頼を得る

相互連携により**獣医療の質**を高める
貴重な症例情報を公開し**共有**する

動物, 飼い主, 一次, 二次診療スタッフ
さらに**獣医学**にとってプラスとなる

まとめ

ウサギ

- ウサギも様々な疾患に罹患する
- 多くは一般的な疾患(まれな疾患はまれ)
- ウサギの飼い主の特徴

診察するためには

- 正常な解剖や生理,飼養管理を知って、取り扱いができる
- ウサギ用の診療環境や知識の準備(特に入院時やAHT)

二次診療への紹介

- 紹介目的は
- どこまで自院で治療するか、継続治療をどこで行うか
- 紹介することのメリットは